

Bird Life International の固有鳥類生息地域 (EBA)

小笠原諸島は、固有鳥類のメグロが生息していることにより Bird Life International の固有鳥類生息地域 (Endemic Bird Areas of the World) に指定されている。以下に小笠原諸島の記載内容を Bird Life International のホームページより転記する。

147 小笠原諸島

重要な生息環境	亜熱帯多雨林	エリア	73km ²	標高	0~400m
主な脅威	耕作、家畜による採草等	国/地域	日本		
による主要な生息環境の減少、導入された生物による捕食		分布の限られる種類		絶滅危惧	合計
生物学的な重要性	●●●	このEBAにのみ生息	1	1	
現在の脅威水準	●○○	他のEBAs, SAsにも生息	0	0	
		合計	1	0	



小笠原諸島は、本州の約1000km南にあります。20の島のうち最大は父島と母島で、20km²よりわずかに大きく、住人がすんでいます。かつては亜熱帯の常緑の森で被われていました。

小笠原諸島は、現存している1種と絶滅した3種によって固有鳥類生息地域に選ばれました。メグロは、母島とその周辺の島々でのみ生息し、父島ではほぼ絶滅しました。

島には1830年まで人は住んでいませんでしたが、今日では約2,000人の人が住んでいます。日本の本土からの移住の結果、その群島では広く森林が失われて耕地になり、またヤギによる採草によって自然植生は破壊されました。

すべての分布の限られた種が、生息地の損失によって影響を受け、修理のために揚陸された捕鯨船から逃げた猫とネズミによる捕食もその減少の一因となりました。

唯一現存しているメグロは、母島では一般的で広い範囲に生息していますが、狭い生息域により何か災害等が起きると被害を被りやすいことから、やはり絶滅のおそれがあると考えられています。この種が少くとも2つの島ではすでに絶滅したという事実がそれを証明しています。

兄島(父島から約500m離れている小さく、比較的手つかずの島)に飛行場を作る計画は中止となりましたが、新しい飛行場を父島に作る計画が検討されています。

1972年に、小笠原諸島の61km²が国立公園に指定され、絶滅の恐れのある自生の植物の増殖および再導入を含む自然環境保全計画が進行中です。

分布の限られた種の生息状況と生息環境

種	世界的な 生息状況	他のEBA (とSAs)	生息環境
カラスバト Japanese Wood-pigeon <i>Columba janthina</i>	nt	148,146 (s091 ^x ,s092)	Forest
オガサワラカラスバト Bonin Wood-pigeon <i>Columba versicolor</i>	EX(1889)		Forest
オガサワラガビチョウ Bonin Thrush <i>Zoothera terrestris</i>	EX(1828)		Forest
メグロ Bonin Honeyeater <i>Apalopteron familiare</i>	VU		Secondary forest, forest edge, bushes, plantations, gardens
オガサワラマシコ Bonin Grosbeak <i>Chaunoproctus ferreorostris</i>	EX(1828)		Forest

世界的な生息状況

- EX 絶滅 (新たな記録がない)
- EW 野生では絶滅 (新たな記録がない)
- CR 絶滅危惧 IA類 (深刻な危機的状況にある種)
- EN 絶滅危惧 IB類 (絶滅のおそれの大きい種)
- VU 絶滅危惧 I類 (絶滅のおそれのある種)
- cd 保全対策依存 (人間による保全活動がなければ絶滅のおそれのある種)
- nt 準絶滅危惧 (絶滅のおそれのある種になる可能性のある種)
- lc 軽度懸念 (絶滅のおそれがほとんどない種)
- DD データ不足 (評価するためのデータの少ない種)
- NE 無評価 (評価がなされていない種)